

第3学年 国語科学習指導案

1組	児童	男子12名	女子15名	計27名
	指導者	教諭	松本祥子	
2組	児童	男子12名	女子14名	計26名
	指導者	教諭	半揚秀樹	

- 1 単元名 大きなことをたしかめよう
 教材名 中核教材「すがたをかえる大豆」「食べ物はかせになろう」
 補助教材「ありの行列」

2 単元について

(1) 児童観

児童は、1学期の説明文「ありの行列」では、段落ごとのまとまりや重要語句に注意しながら、段落ごとの中心になる事柄をとらえる学習を行ってきた。このような学習を通して、段落や書かれている内容を意識して読もうとする姿勢が少しずつ見られるようになってきた。しかしながらまだまだ個人差が大きく、自力で中心文を見つけたり段落に書かれていることを短くまとめたりするには、まだまだ指導が必要である。また、段落に分けて文章を書く場合でも、何人かは段落を考えずに書いてしまう児童も見られる。

事前テストの結果は以下の通りである。(1週間音読した後、実施)

問 題	正答率
①文章構成(始め・中・終わりに分ける。)	43%
②要点まとめ(⑥段落の要点をまとめる。)	11%
③細かなところの読み取り(⑥段落の味噌の作り方をぬき書きをする。)	51%

<①について> 分けた理由を見ると、接続語に着目して文章構成を考えている児童が多かった。ただ、始めを「次に」、終わりを「これらのほかに」をきっかけに分けている児童もおり、接続語の役割について押さえる必要がある。

<②について> みその事例の文を選ぶ、重要語句を入れないなど、中心になる事柄をつかめていない児童が多かった。

<③について> どの文に書いてあるかは分かるが、大事な言葉を適切にぬくことができていない。

以上のことから、接続語の役割を適切にとらえて文章構成を考えさせるとともに、段落ごとの中心となる事柄を落とさずにつかませていきたいと考える。

(2) 教材観

第3、4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」ことである。「書くこと」の目標は「相手や目的に応じ、調べたことが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる」ことである。

本単元は、「すがたをかえる大豆」で段落構成や重要語句に気をつけながら要点を読み取り、「食べ物はかせになろう」で教材文の内容を参考にして自分で調べる食べ物や事柄を選び、それに関する情報を集め、文章にまとめるという複合的なものになっている。

中核教材「すがたをかえる大豆」は、身の回りにあふれている大豆やその加工食品について書かれたもので、内容的には児童にも身近なものである。ただ、大豆の加工食品は、見ただけでは大豆からできているとは思われないものも多く、その意味では、児童に意外性をもって知ることに喜びを与える内容である。教材文から受ける意外性や驚きがその後続く学習を進める意欲につながっていくものと思われる。

また、本教材は、五つの事例が並列的に書かれた典型的な解説型に属する文章構成になっている。それに対し補助教材「ありの行列」は仮説―検証型の文章構成であり、両者を

比較することにより解説型の文章の特徴などを押さえることができる。以上のことから考え、本単元でのねらいでもある段落相互の関係をとらえるうえで、中核教材と補助教材は指導に適する教材と考える。

(3) 指導観

本単元は、興味を持った食べ物について調べ、大事なことを抜き出し、説明したい文章に再構成し書き表すことをねらっている。そのための読むことであり、要点をつかむことであるということをゴールの形となる文章を見せ、強く意識づけていきたい。文章構成を理解すること、段落ごとの要点をまとめ、段落相互の関係をとらえることを児童に身に付けさせた力として押さえていく。

単元の進め方としては、導入で、総合的な学習で行っている大豆栽培を想起させ、教材文と結びつける。自分が興味・関心のある身近な食べ物のことを調べ、説明文にまとめていくことを投げかけ、ゴールを提示して意欲を高めていく。大事なことを分かりやすく伝えるためにはどのように教材文を読み、書くことに活かしていくのか課題をもたせ、文章構成や各段落での書き方について意識して学習させていきたい。「深める」段階では、各段落の小見出しや段落構成、文のはじめ・終わりの書き方を指導していく。その時、図鑑などの資料の

見方や調理用語、教材文とモデル文との違いについても取り上げ、書く時に読み取った学習が活用できるような指導を行っていきたい。「たしかめる」段階では、既習教材「ありの行列」と比較させ、今回の説明文が今までの書き方と違うことや、「中」の段落の並べ方の筆者の意図について考えさせ、書く活動につなげていくようにする。「活かす」段階では、自分の考えが明確になるように、段落を意識して文章を構成させていきたい。特に自分が選んだ題材について、「はじめ」「中」「終わり」の文章の展開が適切かどうか考えさせていきたい。また、推敲の段階では、観点を明確にして行っていきたい。

【仮説に関わって】

手だて1 活用することを意識した単元構成の工夫

興味・関心のある身近な食べ物の本を作り、家族や学年の友達に見せるということをゴールに捉え、教材文の「はじめ」「終わり」の書き方や、「中」の題材の順番の決め方を文章を書く活動での参考にさせながら適切な情報を収集し、知識を活用しながら分かりやすい文章を書くことを実感させる。

「すがたをかえる大豆」と「ありの行列」の比べ読みをし、文章構成を本作りの参考とさせる。

手だて2 個の学びを深める指導の工夫

「深める」段階で、教材文とモデル文の比べ読みからはじめと終わりの文章の書き方・筆者の意見を考えさせる。また、図鑑としての資料の見方や文章へのリライトのさせ方。

3 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・ いろいろな読み物に興味をもち、読む。

【読むこと】

- ・ 段落相互の関係を考えながら、文章の内容を的確に理解する。(イ)
- ・ 内容に大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら読む。(イ)(エ)

【書くこと】

- ・ 調べて書く必要のある事柄を収集したり、選択したりすること(ア)
- ・ 書こうとすることの中心を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意して書く(イ)(ウ)

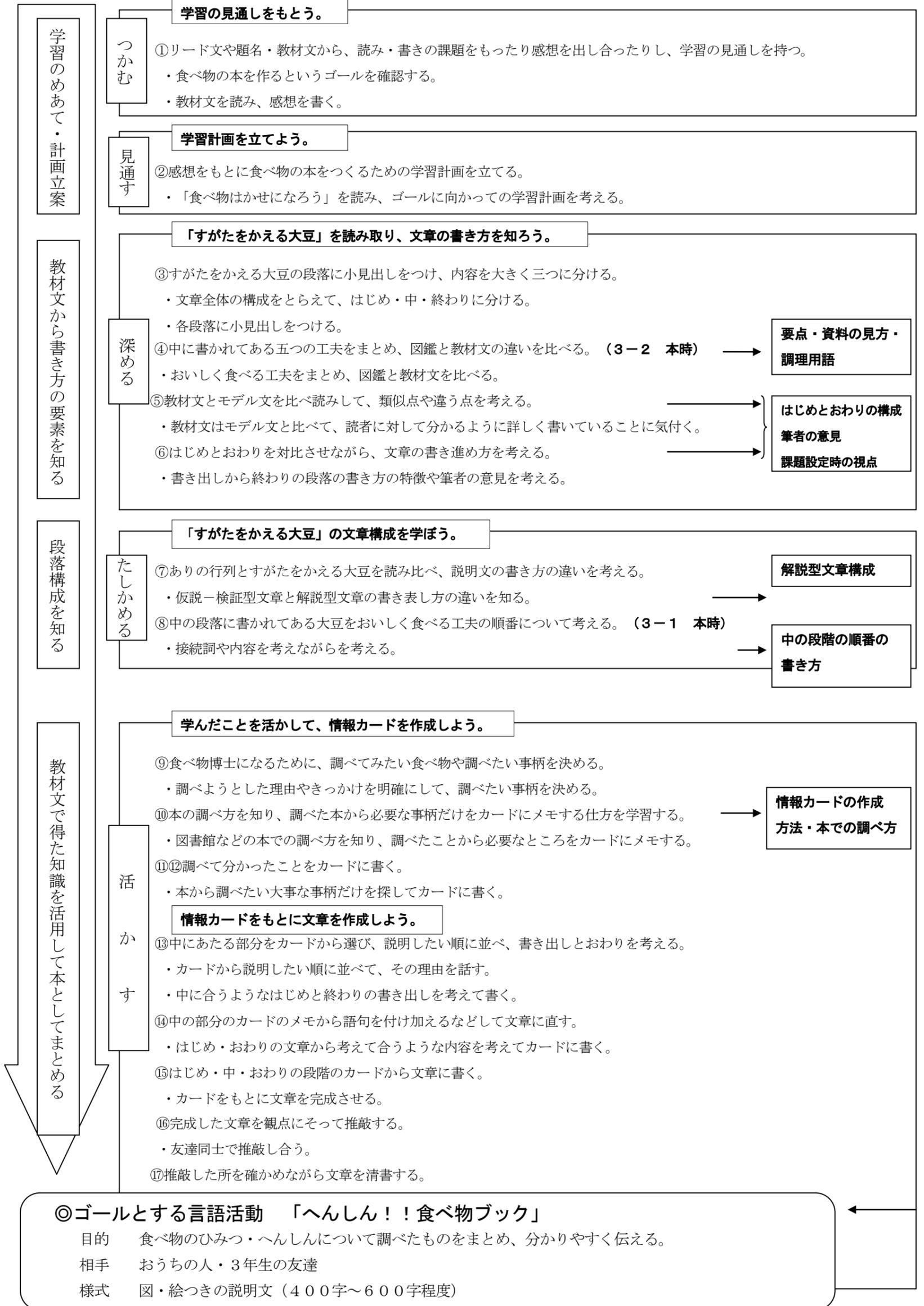
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・ 文章全体における段落の役割を理解する。イー(エ)

4 単元構想図

単元名 「大事なことをたしかめよう」

目標 身近な食べ物についての知識を得るとともに興味を広げ、中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読む。
本での調べ方を知り、身近な食べ物について調べ、分かりやすくまとめて友達と交流する。



5 単元の指導計画と評価規準 (全18時間)

次	時	学習活動	関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
1	1	・リード文や題名・教材文・ゴールの形から読み・書きの課題をもったり感想を出し合ったりし、学習の見通しを持つ。	・ゴールや教材文から感想を書き、単元のねらいや活動の見通しをもとうとしている。		・教材文を読み、初発の感想を書いている。(エ)	・新出・読み替え漢字、難語句の意味を調べている。
2	2	・感想をもとに、食べ物の本をつくるための学習計画を立てる。	・本をつくるために何をどう進めるのか考えようとしている。		・食べ物はかせになるうを読み、調べてみたい食べ物の本などを読むことを理解している。(カ)	
3	3	・すがたをかえる大豆を読み、段落ごとに小見出しをつける。	・文章全体の構成や段落毎の内容をとらえようとしている。		・はじめ・中・おわりの構成をとらえ、1文目を手がかりに小見出しをつけている。(イ)	・接続語の役割を捉えている。 ・はじめ・中・おわりに分けている。
	4	・大豆をおいしく食べる工夫を読み取り、図鑑などと比較し書き方の違いを考える。	・くふうの内容をとらえ、図鑑と比べて似たところや違いを発見しようとしている。		・図鑑のことばと教材文を比べ、教材文が要約されていることに気づいている。(エ)	・段落内の文の構成が分かっている。
	5	・教科書のモデル文と教材文を比べて類似点や違う点を考える。	・モデル文と教材文の類似点や違う点を見つけようとしている。		・教材は読者が分かりやすいよう詳しく記述していることに気づいている。(イ)	
	6	・はじめとおわりを対比させながら、文章の書き進め方を考える。	・はじめとおわりを読み比べ、文章の書き進め方を考えようとしている。		・まとめと筆者の感想についての自分の考えをまとめている。(エ)	
4	7	・ありの行列とすがたをかえる大豆を読み比べ、説明文の進め方の違いを考える。	・ありの行列での学習を思い出しながら、すがたをかえる大豆との違いをみつけようとしている。		・ありの行列の学習と比べて、段落のまとまりや説明の仕方の相違に気づいている。(イ)	・仮説検証型、解説型の文章構成が理解できている。
	8	・中の段落の並べ方の工夫を考える。	・中の説明の順番について自分なりに理由を考えようとする。		・接続語や内容を考えながら説明の順番を考えている。(オ)	
5	9	・食べ物の本を作るために調べてみたい食べ物や調べたい事柄を決める。	・調べたい食べ物や事柄を挙げようとしている。	・調べようとした理由やきっかけを明確にしてシートに書いている。(ウ)		
	10	・図書室などの本での調べ方や、必要なことをカードに書く方法を知る。	・調べたいことに合った図書資料を探そうとする。	・図書資料などから調べたい事柄を探し、大事なことをカードに書いている。(ア)	・調べたいことに合った図書資料の探し方が分かり、選んで読んでいる。(カ)	
	11	・調べて分かったことをカードに書く。	・本から調べたい事柄を探してカードに書こうとする。			
	12			↓		
	13	・中にあたる部分をカードから選び、説明したい順に並べ、書き出しとおわりの部分を考える。	・取材カードから説明したい順に並べ、書き出しとおわりを書こうとする。	・説明したい順に理由をつけながらカードを並べている。(イ) ・中の内容を考えながら書き出しとおわりを書いている。(イ)		・書きたい文章を構成している。
	14	・中の部分のカードのメモから語句をつけ加えるなどして文章に直す方法を知る。	・カードから文章に直す方法を知ろうとする。	・必要な言葉を加えながらメモから文章に直している。(ウ)		・カードの内容に修飾語などを加えている。
	15	・はじめの文章・中のカード・終わりの文章から全体の文章を書く。	・今までの取材カードなどから文章を書こうとする。	・今までの取材カードやはじめ・おわりの文章から文章全体を書いている。(エ)		・カードの内容に修飾語などを加えている。 ・指示語や接続語の役割を理解している。
	16	・友達同士で書いた文章を読み直し、推敲をする。	・表現の間違いやよりよい表現に気づき直そうとする。	・文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりしている。(オ)		・段落の始めの改行に気づいている。 ・表記の誤りを指摘している。
17	・推敲した所を確かめながら清書をする。	・表記や表現の直したところに気をつけて丁寧に清書しようとしている。	・推敲した所を確かめながら、丁寧に清書している。(エ、オ)			
18	・作品を交流し合い、活動のふりかえりをする。	・友達作品を読んだり聞いたりして、よいところを見つけようとする。	・友達の発表を聞いて分かったことや気づいたことを伝えている。(カ)	・友達の作品に対して文章のよいところを見つけている。(オ)		

6 本時の展開 【4 / 18時 3年2組】

(1) 目標

大豆をおいしく食べるための五つの工夫について読み取り、図鑑と教材文との違いを比べることができる。

(2) 指導にあたって

本時のねらいは、大豆をおいしく食べる工夫について、大豆がどのように姿を変えて違う食品になったかを読み取っていくことである。更に、詳しく読み取ったことを活かして同じ内容が書かれている図鑑と比較し、どのような違いがあるかを知り、書く活動への知識としていきたい。

学び合いの段階では、特に5段落について大豆をおいしく食べる工夫について読み取った後に図鑑と比較し、どのような違いがあるかということについて学び合い、「活かす」段階での資料の見方の参考とさせたい。

本時の指導の仮説との関わりは以下の通りである。

手だて1 活用することを意識した単元構成の工夫

- ・大豆をおいしく食べる工夫の情報を、図鑑からどのように読み取っていけばよいかを知る。
- ・前時で学習した小見出しを、本時での読み取りに活かす。

手だて2 個の学びを深める指導の工夫

- ・読み取った内容にあった写真を提示し、理解の定着を図ること。
- ・見通す段階で、読み取る文章がどのように書かれているかを全体で考えること。

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準		支援を要する児童への手だて
	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	
読み取ったことを活かして図鑑と見比べ、教材文と同じ意味の言葉を図鑑から見つけている。	図鑑の見出しと教材文を見比べて、同じ意味だと思える言葉を4個以上見つけて印をつけている。 (ワークシート・発表)	図鑑の見出しと教材文を見比べて、同じ意味だと思える言葉を2～3個見つけて印をつけている。 (ワークシート・発表)	図鑑の見出しに書かれている言葉から、教材文にも同じ意味の言葉がないか一つ一つ確かめさせる。

(4) 展開

段階	学習活動と児童の反応 (・)	支援 (○) と評価 (□)
つ か む 5 分	1. 前時の想起をする。 2. 学習課題を確認する。 大豆をおいしく食べるくふうを読み取り、図かんと教材文をくらべよう。 3. 学習段落を音読する。 一人読み 一斉読み	○中の部分の各段落の小見出しを確認する。 ○本を作成するために大事な時間だということとを告げ、児童の意欲の喚起につなげたい。 ○工夫という言葉に気をつけて読むように、読みの視点を与えて音読をさせる。
深 め る	4. 見通しを持つ。 ○3, 4段落の小見出しから、大豆をおいしく食べる工夫をするとどんな食べ物に変わり、またその食べ物の作り方はどこに書いてあるか考える。 5. ⑤～⑦段落の工夫について考える。 (一人学び)	○3, 4段落の読み取りから、第2文目以降に、大豆からどんな食品になるか、また、その作り方が書いてあるということを理解させ、5段落以降の読み取りにつなげていきたい。 ○調理用語についても確認する。 ○ワークシートに、それぞれの工夫を読み取って書いていくようにする。 ○自力解決が難しい児童には「工夫」という言葉を探させ、それによってどんな「食品」ができ、作り方を考えさせる。

<p>深 め る 35 分</p>	<p>6. 読み取った工夫を学び合う。(学び合い①) ○6、7段落で読み取ったことを交流する。 ○5段落について読み取ったことを発表し合う。 ・とうふは、水をいっぱい吸い込んだ大豆をすりつぶすと、白っぽいしるが出る。これに水を加えて熱する。その後、布を使って中身を絞り出し、ニガリを加えてつくる。 7. 大豆から豆腐にするまでの工夫について、図鑑と教材文を見比べる。(学び合い②) ○図鑑の見出しと教材文を見比べて、同じ意味だと思ふ言葉や文に印をつける。 ・小見出しも教材文も、違う言葉であるが、同じ意味のことが書かれている。</p>	<p>○「むす」「ゆでる」の調理用語について補足説明を行うようにする。 ○大豆がどのような過程で変わっていくかを順を追って理解させる。その時、指示語にふれたり写真との呼応もしていく。また、必要に応じて調理用語にも触れたい。 ○図鑑のコピーと、第5段落とを比較させる。 ○図鑑と教材文を見比べた時、図鑑の方が写真が多いということをして話して、違いを意識させておきたい。 ○図鑑を見る時の視点として、小見出しを参考にしていけばよさそうだとお話をさせたい。 □図鑑と教材文を見比べて、同じ意味の言葉が使われていることを理解できたか。 (ワークシート) ○ワークシートに、自分の学習について自己評価をしてふりかえる。</p>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>8. 学習のまとめをして振り返る。 ○今日の学習で分かったことや友達の頑張りを振り返る。 9. 次時の確認をする</p>	<p>○教材文とモデル文とを比較することを告げる。</p>

(5) 板書計画

<p>わかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図かんの見出しを見るとわかりやすい。 ・ 図かんと教材文をくらべると、ちがう言葉であるが、同じ意味のことが書いてある。 	<p>○図かんとくらべると 水にひたす↓水をいっぱいにする こんだつぶして ↓すりつぶすと ↓水をくわえて熱します こして ↓ぬのを使って中身を絞り出し にがりをくわえて かためる ↓かためるためにニガリというものをくわえます</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="766 1254 861 1388">写真③</td> <td data-bbox="766 1411 861 1984">こうすると、とうふ 五文目</td> </tr> <tr> <td data-bbox="861 1254 957 1388">写真②</td> <td data-bbox="861 1411 957 1984">しぼり出す↓ニガリをくわえる 四文目</td> </tr> <tr> <td data-bbox="957 1254 1037 1388">写真①</td> <td data-bbox="957 1411 1037 1984">水につける↓すりつぶす↓ 水をくわえる↓ねっする↓ 三文目</td> </tr> </table>	写真③	こうすると、とうふ 五文目	写真②	しぼり出す↓ニガリをくわえる 四文目	写真①	水につける↓すりつぶす↓ 水をくわえる↓ねっする↓ 三文目	<p>○第五だん落 大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふう。</p> <p>大豆をおいしく食べるくふうを読み取り、図かんと教材文をくらべよう。</p> <p>課題 すがたをかえる大豆</p>
写真③	こうすると、とうふ 五文目								
写真②	しぼり出す↓ニガリをくわえる 四文目								
写真①	水につける↓すりつぶす↓ 水をくわえる↓ねっする↓ 三文目								

6 本時の指導 【8 / 18時 3年1組】

(1) 目標

事例の食品について筆者の並べ方の意図に気づき、事例の挙げ方の工夫をまとめることができる。

(2) 指導にあたって

本時は、「すがたをかえる大豆」を読み取ったことと「ありの行列」を比べて説明の型の違いを学習した次の時間である。解説型の「中」の段落の組み立てについて学習する。調べたことをどの事例から説明するかによって筆者の意図が表れるということに気づかせ、自分が説明文を書くときにも活かしていくようにしたい。また、深める段階と活用する段階をつなぐ時間でもあるので、既習事項をこれから学習することに結びつけていくように気づかせていきたい。

本時の指導の仮説との関わりは、以下の通りである。

手だて1 活用することを意識した単元計画の工夫

- ・事例の順序に込められた筆者の意図を考え、自分の作品の参考にする。
- ・学習の振り返りを次時の活動に結びつける。

手だて2 個の学びを深める指導の工夫

- ・既習事項を見通して想起させ、考えの根拠付けができるようにする。
- ・考えの根拠を明確にした学び合いを仕組む。

(3) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	具体的評価規準		C努力を要する児童への手だて
	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	
説明の順序の工夫について自分なりの根拠を持って書くことができる。 (エ)	説明の順序の工夫について自分なりの根拠を持って書き、筆者の意図もまとめている。	説明の順序の工夫について自分なりの根拠を持って書いている。 (ワークシート)	大豆のすがたがどのように変わっているのか「その形のまま」の言葉から考えさせる。

(4) 展開

段階	学習活動と児童の反応(・)	支援(○)と評価(□)
つかむ 10分	1. 前時までの想起を行う。	○解説型の「すがたをかえる大豆」の「中」の段落の並べ方に気をつけて読むことを確認する。 ○接続語に注意しながら、写真で出てくる食品の説明している順序を確認し、順序は変えてもよいか考えさせる。
	2. 学習課題を確認する。 「中」の段落の並べ方の工夫を考えよう。	
深	3. 資料を読む。 ○段落③④⑤⑥⑦を音読する。	○段落⑦については、大豆そのものの加工をしている段落③～⑥と位置づけが異なるので、除いて考えるようにする。 ○段落の並べ方の根拠となる言葉を本文から見つけるとよいことを確認する。 ○前段階で学習した「中」の読み取ったものをまとめたワークシートも考える手がかりにさせる。
	4. 見通しを持つ。 ・大豆のすがた ・工夫の仕方 ・大豆に手を加えるときの言葉	
	5. 一人学びをする。 ○説明の順番の工夫を考え、その根拠も、ワークシートに書く。 ・大事な順番に	○③～⑥までの順番を何によって決めたのか筆者の意図を考えさせるようにする。 ○書き始められない児童には、大豆のすがたに着目するように声掛けする。

<p>め る 30分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい順番に ・大豆のすがたが見えるものから見えないものへ順番に ・手の加え方が少ない順番に <p>6. 学び合いをする。 ○調べたことをペアで交流する。</p> <p>○交流して分かったこと・順番の工夫の内容と理由を発表し合う。 <根拠とすること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちばん分かりやすいのは ・その形のまま ・ちがう食品にする ・1日近く→1年の間 ・大豆のすがたから <p>7. 筆者の書き方の工夫について、分かったことや、学んだことを書く。</p> <p>8. これまでの学習の振り返りをし次時からの学習の見通しを持つ。</p>	<p><input type="checkbox"/> 本文や既習のワークシートから、説明の順序の工夫について自分なりの根拠を持って書くことができたか。(ワークシート)</p> <p>○自分の考えがもてなかった児童には、ペアの人が話したことへの感想を言うようにする。</p> <p>○交流して、お互いの調べたことに対して分かったことを聞きながら分類し、関連づけていく。</p> <p>○順番の意図を考えるとときの根拠を明らかにし、板書に位置づけながら話し合いを進める。</p> <p>○はじめと終わりの段落の言葉「すがたをかえている」「手をくわえて」「いろいろなすがた」にふれ、順序に込められた筆者の意図を考えさせる。</p> <p>○友達から学んだこと・「中」の段落の並べ方で必要なことも書くようにさせる。</p> <p><input type="checkbox"/> 学び合ったことから、説明の順序の工夫について自分の言葉で書くことができたか。(ワークシート)</p> <p>○本時で学んだことに加えて、これまで学習したことを振り返りながら説明文を書くときのポイントを確認する。</p>
<p>ま と め る 5分</p>	<p>9. 学習をまとめる。 ○自分の学び方や友達のがんばりを振り返る。</p> <p>10. 次時の確認をする。</p>	<p>○自分の考えを書く、聞き方、話し方がどうだったか自己評価させ、何人かに紹介させる。</p> <p>○自分の調べたい食べ物を決める学習することを確認する。</p>

十月三十日 すがたをかえる大豆
 課題

◎言いたいことがつたわるように説明のじゅんじよを考える。

⑥ 写真

しょう油	みそ	なっとう
一年		一日

⑤ 写真

とうふ

ちがう食品

④ 写真

きなこ

③ 写真

に豆

いり豆

一番分かりやすい
そのままの形

「中」のだん落のならば方のくふうを考えよう。

③～⑥のならば方

- ・大豆のすがた
- ・工夫の仕方
- ・大豆に手をくわえるときの言葉